



中部教区通信

編集日本キリスト教団中部教区
教区通信編集委員会
横山良樹
発行人所〒461-0009
名古屋市東区久屋町8の6
日本基督教団中部教区事務所
電話(052) 971-8497
E-mail ckyo@quartz.ocn.ne.jp
振替口座 00830-7-52037
Homepage <http://uccj-chubu.com>



神が苦しみをも 用いてくださる

フィリピの信徒への手紙一章十二節～十四節

豊橋教会牧師 前田 和之

この手紙の著者である伝道者パウロは、はじめのところにおいて、「わたしの身に起こったこと」について語っています。どういうことかといいますと、この時パウロは監獄にいたわけです。牢獄にとらえられていて、その牢獄の中から「獄中からの手紙」としてこのフィリピの信徒への手紙を書いているということになります。使徒言行録には、伝道旅行でまさに各地の町々を飛び回るようなくリストの出来事、神様の恵みを知らせていた伝道者パウロの姿が示されています。そのパウロにとりまして、このような働きができずに獄中にいるということは、牢獄にて受けた肉体的な苦しみよりも、福音を宣べ伝えることができない精神的な苦しみのほうがはるかに大きかったのではないか。そして私たち

も同じように、キリスト者としてこの世の人生を歩むときに、自分は神の福音を伝えていく上で何の役にも立たない者なのではないかと苦しむことがあります。しかしパウロは御言葉によつてこのように証しているのです。「兄弟たち、わたしの身に起こったことが、かえつて福音の前進に役立つたと知つてほしい。」（一・十二）私たちは本当に神様の福音を伝えていく上で前進や喜びではなく困難さを感じる時に神のみ前で何の役にも立たない者になってしまふのでしょうか。そうではないとパウロは言います。教会の伝道は、福音を前進させるのは、主なる神であり私たちと共にいてくださるキリストなのです。

神様は伝道の苦しみの中で、パウロを思つてもみない形で用いて下さっているのです。

それはパウロが受けている獄中の苦しみはキリストをまことに確信をもつて宣べ伝えているための苦しみである。そこのことを人々がパウロが思つて以上に知つているといふことなのです。つまり、パウロが牢獄に監禁されていること自体が大きな福音の前進に役立つているということなのです。パウロが牢獄で苦しめと戦つてること自分が、そのような苦しみさえ恐れないと戦つていていること自体が、い信仰の姿を証ししているのです。このように示されます。「つまり、わたしが監禁されているのはキリストのためにあります。このように示されると、兵営全体、その他すべての人々に知れ渡り、主に結ばれた兄弟たちの中でも多くの者が、わたしの捕らわれているのを見て確信を得、恐れることなくますます勇敢に、御言葉を語るようになつたのです。」（一・十三）パウロのことを見る他のキリスト者、クリスチヤンが、パウロのまさに「キリストと共に生きる」その姿を模範として、「ますます勇敢に、御言葉を語るようになります」とができますように祈ります。

前進していくたということなのです。

それは、神と共に歩み、神を証しする時に私たち、いやこの私自身の苦しみとか困難さが神様に、キリストに頼みられて報いられることがあるのだということです。自分が思つてもみなかつたその仕方に役立つているということなのです。パウロが牢獄で苦しめと戦つてること自分が、そのような苦しみさえ恐れないと戦つていていること自体が、い信仰の姿を証ししているのです。このように示されると、兵営全体、その他すべての人々に知れ渡り、主に結ばれた兄弟たちの中でも多くの者が、わたしの捕らわれているのを見て確信を得、恐れることなくますます勇敢に、御言葉を語るようになつたのです。」（一・十三）パウロのことを見る他のキリスト者、クリスチヤンが、パウロのまさに「キリストと共に生きる」その姿を模範として、「ますます勇敢に、御言葉を語るようになります」とができますように祈ります。

さる5月22日～23日、金沢教会において第68回中部教区総会が行われました。北陸での開催は4年ぶりです。出席正議員は195名中166名でした。この総会で若林治郎教師（田瀬教会主任・坂下教会・付地教会兼務）が按手礼を受領して正教師に、また新藤豪氏（輪島教会）、種房正勝氏（上野教会）、種房淳子氏（上野教会）が准允を受けて補教師に任命されました。また秋に行われる第41回教団総会議員選挙を行い、教職11名・信徒11名、あわせて22名の議員を選出しました。

2日間の議事をふり返り、今総会で議場の関心が集まった3点について報告と解説を加えます。

中部教区は「伝道・互助・研修」に力を入れていますが、17年度新たな試みとして、大嶋重徳先生（KGK：キリスト者学生会主事）を迎えて、「中部教区バイブルキャンプ：You中部～イエス様、信じてみた」を2018年3月26日～28日に行いました。大嶋重徳先生とは2回の教師研修会を通して交流があり、このバイブルキャンプもそこからの成果と位置づけています。会場は石川県小松市の施設で、34名の中学生・高校生にスタッフ20名を加え、全体で54名の参加でした。この報告が映像を用いてなされました。密度の濃いプログラムで、その後、参加した中高生の中から5名の受洗者・信仰告白者がペンテコステに与えられたと聞いており、感謝しています。教区バイブルキャンプは今年度も3月に行いますので、是非、子どもたちを送りだして頂きたいと願います。

諸教区においてゆるやかに教勢が低下し続けていることは全体教会としての教団の体力をも低下させています。中部教区は諸教会・伝道所からささげられた献金のうち、その約4割を教団負担金として納めています。教団側からいえば、この教区負担金総額が現在2億5千万円（伝道資金を除く）ほどあるのですが、10年後には約2億円になると予測されています。すでに教団の予算決算委員会は現行の体制を維持できるのは2020年までで、以降は予算が立てられなくなると警告しています。そこで教団は現在、2億円規模で行われる教団活動・機構を求めて改定案を検討中なのです。今総会では教団問安使から、この「教団機構改定案 骨子」が報告されました。重要な案件ですので、この骨子は総会議案書に同封して事前に送り届け、1日目夜のセッションに時間を取りました。全体像の把握が容易ではなく、問題の受け止めはお世辞にも完全とは言えませんが、議場では2020年以降は財政的に破綻するという教団の歩みを見据え、中部教区は日本基督教団が全体教会で



あることを弁え、教団信仰告白と教憲教規にもとづく一致を求めつつ、今後の機構改定の動きを注視してゆくことを確認しました。

さて、わたしたち中部教区の教勢低下を分析してみると2011年度以降の落ち込みがはげしく、礼拝出席、財政、働き手などの減少傾向が多岐にわたる影響を及ぼしています。とくに教区の伝道を支える互助体制（謝儀援助、伝道費援助、聖礼典執行援助、教師退職一時金積立援助、赴任費援助、伝道活動援助費など）への影響が深刻です、こうした状況を見て取って前年度の教区総会で「中部教区互助制度を支える自主献金」（「教師の生活を支える自主献金」の名称を修正）を可決。常置委員会は目標額を100万円とし、振起日に献金をお願いしました。これに信徒の方々

が積極的に応えて下さり、結果的に目標を大幅に上回る320万1880円がささげられました。これにより従来の謝儀援助800万、伝道費援助600万、合計1400万円の枠組みを大きくこえた約200万円の増額を行い、新規申請をも受け入れた互助案をたてることが許されました。本当に感謝です。今回、この「中部教区互助制度を支える自主献金」は各教会・伝道所の役員会・長老会あてに、教区が作成した封筒を送付して、信徒一人一人に配布するよう依頼して実施されました。この方法について議場でも質問がありましたが、あらためて献金によって教師の生活を支えるという原点を確認することが許されたのではないかと考えます。そしてこの自主献金の開始によって、中部教区互助制度は、諸教会・伝道所からの助合伝道献金（教会負担分）、教師互助会から年額6割を助合伝道に繰り入れ（教師負担分）に、新しく信徒による自主献金の三本柱で互助制度を支える新しい局面に入ったと言ってよいでしょう。2018年度は目標額を実績にあわせて250万円としています。どうか新しくこの働きに加わる信徒の方が与えられますよう、お祈り下さい。これらの献金運動には教区内諸教会・伝道所の信頼関係と相互理解が欠かせません。そのための一助として2013年度より毎年、教会活動報告書を400字で提出願い、教区総会資料別冊として添付しています。これを祈祷会の時に用いて下さる教会も少しずつ増えているようで感謝なことです。以上、バイブルキャンプ、教団機構改定、互助（自主献金）についての報告です。

それぞれに与えられた持ち場で2018年度も6県7地区104の教会・伝道所、付属施設、キリスト教主義教育機関の働きが祝され、福音伝道の御業が進展しますように祈ります。

活かされています 教区の助合伝道献金 城之橋教会 伝道活動費援助（伝道部）

いつも津島日光川燈台伝道所のために祈つていただき、また支援してくださることに心から感謝を申し上げます。

人口六万人の津島は、ユネスコ文化遺産に登録された「天王祭り」で有名です。その他、モスクや統一教会、エホバの証人、天理教会等の施設があつて、パウロが「アーテネの皆さん、あらゆる点においてあなたがたが信仰のあつい方であることを、わたしは認めます」（使17・22）と述べたことと重なる町です。こうした町に派遣された津島日光川燈台伝道所は、生きる指針や救いを求めるいわば「信仰のあつい人々」を主に導くために

津島日光川燈台伝道所 伝道費援助（互助委員会）

いつも津島日光川燈台伝道所のために祈つていただき、また支援してくださることに心から感謝を申し上げます。

人口六万人の津島は、ユネスコ文化遺産に登録された「天王祭り」で有名です。その他、モスクや統一教会、エホバの証人、天理教会等の施設があつて、パウロが「アーテネの皆さん、あらゆる点においてあなたがたが信仰のあつい方であることを、わたしは認めます」（使17・22）と述べたことと重なる町です。こうした町に派遣された津島日光川燈台伝道所は、生きる指針や救いを求めるいわば「信仰のあつい人々」を主に導くために

中部教区のお支えとお祈りを心から感謝致します。私たち城之橋教会は、福井駅から徒歩十数分の所に位置する小さな教会です。二〇〇八年に行われた耐震診断により、補強工事不可との診断が下され、併設する幼稚園と共に、新会堂・新園舎の建築について準備を進めていましたが、非常に困難を極め、教会・幼稚園の閉鎖も視野に入れた検討も致しました。二〇一六年に皆の祈りと願いが叶えられて隣接地を購入することが叶い、幼稚園と共に移転新築し、新会堂が与えられました。しかし、緊迫した建築の議論が長期間に亘って続けられることにより、教会員が疲弊し、残念ながら教会から離れてし

まつた仲間がいる事も事実です。

そんな中、私たちの教会を支え、祈りと共に前へ前へと押し出してくられたのは、毎週の礼拝と伝道活動でした。特に中心的な役割を担つていていたのが、二〇一二年より毎年夏と冬に開催されて来たチャペルコンサートです。教区からもコンサート開始当初より「伝道活動援助」を頂き、今年の夏には十三回目を迎えます。

毎週の礼拝は、十五人程度で守つてあります。コンサートの時には百人以上の方々が集まり、毎回の開催を楽しみにしておられる固定ファンも生まれました。近年は、冬のコンサートを、共に祈り賛美する礼拝につながつて欲しいとの願いから、クリス

もう一つは伝道所が位置した町に定期的にポステイングが行われることです。クリスマスやイースターバイブルキャンプに生徒たちを外のところにいらっしゃる方々もいます。伝道費援助が大きな力となり、これによつてその方々が元気を取り戻される恵みが与えられているのです。

もう一つは伝道所が位置した町に定期的にポステイングが行われることです。クリスマスやイースターバイブルキャンプに生徒たちを外のところにいらっしゃる方々もいます。伝道費援助が大きな力となり、これによつてその方々が元気を取り戻される恵みが与えられています。

塔の時には、女性会の方々に焼いてもらつたマドレーヌやイースターケーキ等に用いられています。可能な限り週に二ヶ所ほど家庭訪問を行なうとしています。心の病気を持つか遠のいた方、日ごろ出席ができない方を訪ね、一緒に賛美を捧げ、また祈りを集めます。愛知県から激励や励ましの言葉を受けているのは大変嬉しいことです。

また今回初めて行なわれた中部教区バイブルキャンプに生徒たちを参加させることができました。それが基となって、活気ある教会学校のために祈りを集めています。

主がコリント教会に「この町にはわたしの民が大勢いる」（使18・10）と言われた御言葉は、津島日光川燈台伝道所に与えられたビジョンだと見受けしました。国籍と言葉

塔の時には、女性会の方々に焼いてもらつたマドレーヌやイースターケーキ等に用いられています。可能な限り週に二ヶ所ほど家庭訪問を行なうとしています。心の病気を持つか遠のいた方、日ごろ出席ができない方を訪ね、一緒に賛美を捧げ、また祈りを集めます。愛知県から激励や励ましの言葉を受けているのは大変嬉しいことです。

また今回初めて行なわれた中部教区バイブルキャンプに生徒たちを参加させることができました。それが基となって、活気ある教会学校のために祈りを集めています。

主がコリント教会に「この町にはわたしの民が大勢いる」（使18・10）と言われた御言葉は、津島日光川燈台伝道所に与えられたビジョンだと見受けしました。国籍と言葉

塔の時には、女性会の方々に焼いてもらつたマドレーヌやイースターケーキ等に用いられています。可能な限り週に二ヶ所ほど家庭訪問を行なうとしています。心の病気を持つか遠のいた方、日ごろ出席ができない方を訪ね、一緒に賛美を捧げ、また祈りを集めます。愛知県から激励や励ましの言葉を受けているのは大変嬉しいことです。

また今回初めて行なわれた中部教区バイブルキャンプに生徒たちを参加させることができました。それが基となって、活気ある教会学校のために祈りを集めています。

主がコリント教会に「この町にはわたしの民が大勢いる」（使18・10）と言われた御言葉は、津島日光川燈台伝道所に与えられたビジョンだと見受けしました。国籍と言葉

塔の時には、女性会の方々に焼いてもらつたマドレーヌやイースターケーキ等に用いられています。可能な限り週に二ヶ所ほど家庭訪問を行なうとしています。心の病気を持つか遠のいた方、日ごろ出席ができない方を訪ね、一緒に賛美を捧げ、また祈りを集めます。愛知県から激励や励ましの言葉を受けているのは大変嬉しいことです。

また今回初めて行なわれた中部教区バイブルキャンプに生徒たちを参加させることができました。それが基となって、活気ある教会学校のために祈りを集めています。

主がコリント教会に「この町にはわたしの民が大勢いる」（使18・10）と言われた御言葉は、津島日光川燈台伝道所に与えられたビジョンだと見受けしました。国籍と言葉



牧師 浦上充





北陸学院中高 高田恵嗣

この春から、北陸学院中高の宗教主事として着任しました高田恵嗣です。これまで三重地区の上野教会に6年間おりましたので、同じ教区内での移動となりました。これまで牧師として18年間の歩みだったのですが、この春からは学校での新しい働きが与えられました。やっと4か月が過ぎ、初めのころから比べると少しづつですが仕事にも慣れ、日々を過ごしております。これまでの違いを挙げるときりがないのですが、大きく変わったのは土曜日にこそゆっくり休める習慣です。日々は仕事に追われておりますが、日曜日の礼拝で信仰の糧をいただきつつ、新たな一週間を歩みだす毎日です。家族共々、新しい場所で元気に過ごしております。



輪島教会 新藤 豪

私は、東京神学大学を卒業し四月より輪島教会へ派遣されました。一九六〇年生まれ、大阪育ち。会社に勤めていましたが、リストラをきっかけとして献身しました。それまでは、自分が伝道者になるなんて、夢にも思っていませんでした。神のなることは実に不思議です。人間の思いもよらないような想定外の出来事を用意なさいます。

私自身が祈るよりも、まず周りの人たちが支え祈つていて下さっている、だから、今の自分がある、そう思います。東神大はセミナリー、その言葉のルーツは苗床です。ですから苗床から取り出されたばかりの状態、それが卒業です。地区の教職の方々と繋がりながら、そしてまた教員からも育てられたいと思います。一個教会に留まらず広く福音のために祈ります。



田瀬教会 若林治郎

中津川市、東濃三教会（田瀬・坂下・付知）に就任し二か月半が立ちました。この二か月半は誠に密度の濃い時でした。その時を過ごしうり返りをしてみると、主の導きと恩寵の豊かさを思わずにはおられません。会社勤めの後の学びから按手礼受領までの道のりは、ただ主の恩寵以外の何者でもなかったのです。私は無任所の時をも経験しています。正教師試験合格の通知を受けた一か月後無任所教師となっていました。その後無任所の時は二年間続きました。その間厳しい時を過ごしました。しかしその二年間は私にとってムダな時ではありませんでした。その間は教会に仕えるという事を深く学ばされた時もありました。今日与えられた環境を生かし世と教会に仕えたいと願っています。よろしくお願ひします。

ひとつこと



着任して



春日井教会 木下忠司

1997年4月、それまで過ごした東京での36年間の生活から離れ、神学校を卒業したばかりで、岐阜地区、坂下教会主任担任としてはじまった伝道者としての歩み。その後、坂下教会を中心とした東濃伝道圏3教会での21年間の務めを終え、4月より愛知西地区、春日井教会に赴任することとなりました。

「障がい者と教会」委員会でご一緒させていただいた河野言使先生とのご縁もあっての赴任です。でも、それだけとは言い切れない、とても不思議な導きを感じています。これまで過ごした農村とはまったく異なる住環境、新たな経験である幼稚園での務めなど、戸惑うこともありますが、ここで主から託された使命を見極め、気負わずに務めてゆきたいと思います。



華陽教会 柳本伸良

四月から華陽教会に赴任してきた柳本伸良です。就任式ではたくさん励ましと祝福の言葉をいただき、改めて感謝致します。岐阜へ来るのは初めてですが、もともと母方の祖父の故郷でもあるので、なんとなく「帰ってきた」感じです。また、岡崎で牧師をしている父と同じ教区になります。これからは親子共々お世話になります。

教会の皆様も暖かく接してくださり、本当にいつも支えられています。正教師になつて初めての聖餐式も、葬儀も、訪問聖餐も、色々な方がフォローと執り成しをしてくださり、無事に進めていくことができました。幼稚園の子どもたちも、毎日いっぱい元気をくれています。まだまだ未熟なところが多くある者ですが、どうぞ、これからよろしくお願い致します。



名張教会 栗田三郎

理系大学を中退して、技術系の翻訳を生業としていました。ことばや翻訳にこだわりがあり、日本伝道の遅滯は聖書の訳（と神学）に多分にその要因があると思っています。靈・天国・地獄・サタン・天使・罪・説教…といった基本概念の訳と神学に大きな問題があります。オッペケペ節ではありませんが「教会の門を叩いてみれば因循姑息な音がする」では駄目でしょう。前任地の幼稚園や学校で「主の祈り」が唱えられても、信仰者が殆ど生まれないことを目にしました。唱えても心が痛まない「主の祈り」は‘じゅもん’に過ぎません。心の痛み無しに唱えることが出来ない十戒が、教会でも信仰教育でも顧みられないのは信仰義認論が誤解されて、「律法廃止（マタイ5:17）’になっているからではないでしょうか。



はじめまして、私の名前は辻秀治と申します。出身地は東京都日野市、キリスト者の両親に連れられ、幼い頃から日本キリスト教団

科のキャンプで育てられ、十年の社会人経験を経た後、東京神学大学に入ります。学部三年の時に辻順子（今は鳴海教会牧師）と結婚、神学生時代は千歳船橋教会、伝道師になつてからは藤沢教会で奉仕しました。按手を受け牧師となり下谷教会の招聘を受け上野の地で十三年勤めました。その後、前年度まで伊豆諸島の三宅島伝道所で復興伝道に就いていました。コンクリート技士・診断士を持つていて、会堂の新築・増改築、耐震補強、礼拝堂の音響について助言できます。お気軽にお声掛け下さい。

桑名教会 辻秀治



種房淳子 上野教会 種房正勝

一八八〇年代に米国長老派教会のドレナン女史が、伊賀上野地域で行つた教育活動と開拓伝道により生まれた歴史と伝統を持つ上野教会ですが、何世代にも亘り信仰が継承され、聖書研究祈祷会には、十五名余の出席者があります。信頼の養いを求めて、良く学び、奉仕し、献金で励んでいる信徒の姿に感動しています。堅実な祈りに支えられています。就任式を終え、伝道師としての歩みが正式に始まりました。信徒の方々の信仰が豊かに育まれ、まだ福音を知らない方々に救いの御言葉が届きますようにと祈りつづきたいと願っています。



昨年12月、突然、「上野教会ですが、」と仰る電話で、「お見合い説教」の日取りを決めたいと言われました。当時わたくしも夫婦は、東京の秋葉原駅前に住んでいました。「えっ、上野？」。

上野は、いつも西郷さんの銅像の上野公園まで散歩していたところです。でも上野駅前のあの教会は下谷教会では？

そして、今年4月、桜が真っ盛りの由緒ある忍者の里、芭蕉の生誕地、静かなたたずまいの城下町、上野に着任させてもらいました。ここでも、道路標示には「上野公園」、さらに「銀座通り」に、おまけに「銀座4丁目」まであります。その上信仰に篤い信徒の兄姉と一緒に祈りを捧げる日々に恵まれ、人智の及びもつかない主の御計らいに感謝しています。



鵜方教会 岡田はるみ

今夏、異常な豪雨で被災された多くの方々に、心より御見舞い申し上げます。どうか、主からの慰めと励まし、復興への力強いご支援が各々の地に豊かに注がれますようお祈り致します。

私こと2018年4月1日より鵜方教会に赴任致しました。鵜方教会は本年6月で64歳の誕生歴史を持ち、当初の三本柱と呼ばれた教員三家族も元気にお出席しておられます。初日、教員の皆様が快く歓迎してくださり感謝しております。志摩の地は温暖で種の成育に適しており、御言葉の種は既に幾多蒔かれ成長しておりましょうや。主は言われます。「収穫が多いが働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださいるように、収穫の主に願いなさい」。いざ迎える収穫のため祈り備えたく思っています。



「強く、雄々しくあれ：あなたがどこに行つてもあなたの神、主は共にいる。」ヨシュア一・六～九四月より紀伊長島教会に遣わされ、早や三か月が過ぎました。これまで生活圏が東京・埼玉近郊であつたため、見知った土地との違い、また伝道師時代との違いに気づくことが多く、学ばせられる毎日です。心落ち着かない中、聖書を開き、ただただ御言葉の力強さを実感します。献身へ導かれた際に、与えられた御言葉が出エジプト記三章十二節でした。そして、招聘の際に与えられたのが、ヨシュア記の御言葉です。変わることなく共にいて、召してくださる主に信頼し、御用をなしていきたく思います。これからも、中部教区の諸教会の皆様と良いお交わりをいただければ幸いです。

紀伊長島教会 富山希望



イエス様とのガチンコ

中部教区バイブル・キャンプ報告

「私たち神様を目で見ることはできません。しかし、神様が共におられることを肌で感じることができます。」ここにいるみんなに、神様が触れてくださっているのが分かる。」奉仕者の一人がそのように語っています。あのキャンプの時、確かに神様はキャンプの時、確かに神様はキヤンパー、奉仕者一人ひとりに触れてください、その口に祈りと讃美と、信仰の告白を与えてくださいました。

中部教区において、驚くべきキャンプが行われました。それは言葉で言つても分からぬ、映像で見てもまだ不十分なほどに、鮮やかで、輝きを放つものでした。正直言つて、キャンプの準備期間中は、私自身、これほどまでに素晴らしい会になるとは思っていました。なんど不信仰な者だらうと思わざります。しかし、私の思いなどはるかに超えて神様の素晴らしい御業がなされました。

中部教区の初めてのバイブル

キャンプは一泊教師研修会にK G K（キリスト者学生会）の大嶋重徳総主事を二年連続でお招

きして、青年伝道について教師たちが学んだことから始まりました。夜の講演が終わつた後、若手教師たちを中心に大嶋先生と共にフリートークで青年伝道のビジョンを語り合う中で、バイブルキャンプの企画がスタートしました。行きがかり上初めて

は教師部で、その後実行委員会に引き継がれ、三月二十六～二十八日に小松市で行いました。



のはまさに証でありました。イエス様と出会わなければ語ることができない言葉です。

大嶋先生による講演のあとには、それぞれが受け取った御言葉を書き記す時間が持たれました。そして、ふだん教会ではなかなか歌う機会がない、現代的な言葉でつづられた讃美歌を歌います。語られた等身大の言葉に、自分の言葉で応答していくのです。また、奉仕者がカウンセラーとなり、これまでの教会生活や、これからイエス様とどう歩んでいくかなどを、一対一で分かち合い、共に祈り合う時間も持ちました。会が終わる直前には、静思の時を持ち、このキャンプで受けた恵みをもうしても記しておきたいのは、一人ひとりがイエス様と出会うためのプログラムだったということです。今回キャンプの終わってから子どもたちによる個人発表がありました。誰か代表者がいて、その人の素晴らしい言葉になりました。みんなで相槌を打つのはありません。キャンプの思い出、経験した新しいこと、そしてこれから教会生活について、信仰について自分自身の言葉で語るのです。その場で語っていた

概要は二ページの横山議長の報告にありますから、多くは語りません。ですが、特徴としてどうしても記しておきたいのは、一人ひとりがイエス様と出会うことです。今回キャンプの終わってから子どもたちによる個人発表

人つきりで振り返りました。

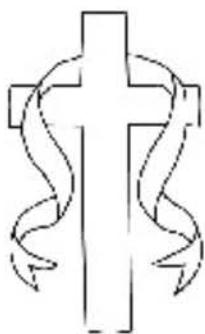
その中でキャンパーたちはどんどんと変えられていました。会の初めにはムスッとしていた子が嬉しそうに神様について話すのです。なんと素晴らしい経験を彼らはしたのでしょうか。中高生だけではあります。大人も、成熟したクリスチヤンも、牧師だからこそ語るべき出来事がそこにはありました。

実行委員 吉川光太郎

うらばの声

五月に中部教区総会が金沢教会で行われた。各教会・伝道所の信徒、教師が一堂に集まる教会会議である。その初めと終わりに礼拝が持たれた。普段の教会の礼拝とは違つて、大勢の主の民と共に礼拝を捧げ、賛美を歌う。大きな声で讃美歌を歌われると、その賛美が会堂を揺らせるようになります。そこでいる人たちの顔や名前を皆知つてゐるわけないが、同じ信仰を持ち、響き渡る。そこには教会の姿が集まつて高らかに賛美の声を上げている。その声を聞きながら、ここに教会の姿がある、そのことを思うと心が震えます。総会では、そのことはもちろん、ここに教会の姿がある、そのことを思うと心が震える感動を覚えた。総会では、教区も教団も伝道の危機が繰り返し報告されていました。教区諸教会・伝道所も厳しい現実の中を歩んでいる。しかし、孤立した伝道の戦いをしていられるのではない。背後に共に主を賛美する大勢の民がいる。励まし合つて御言葉を宣べ伝えいきたい。

「見よ、兄弟が共に座つてゐる。なんという恵み、何といふ喜び」（詩一二三二・二）



隠退して



南 吉衛

牧師が在任した教会を辞任し、無任所教師となる場合、何か良い理由を見出しが出来れば、幸いだと言わねばなりません。わたしの場合、八年間在任した桑名教会を去ることは、個人的、感情的には、とても辛いことでした。もう少し務めることが出来るのではないか、という思いが強かつたからです。しかし日々の伝道・牧会の上に、他の方々に迷惑がかかることが明らかになり始め、一線を退くことにしました。

正式には、二〇一八年三月三十一日をもつて隠退教師となり、三重地区、中部教区と交わりが薄くなつた気がしています。三月迄、親しく、心の籠つた、地区教師会への参加の案内はもう来なくなり、寂しさを感じる日々を過ごしています。

戦後、愛知教会の菅原菊三牧師、献一牧師はじめ信徒の方々の支援を受け、その後は愛知教会から独立して枇杷島伝道所の開設に至りました。現在地に教会が建てられ、一九六八年まで、礼拝と集会は

正式には、二〇一八年三月三十一日をもつて隠退教師となり、三重地区、中部教区と交わりが薄くなつた気がしています。三月迄、親しく、心の籠つた、地区教師会への参加の案内はもう来なくなり、寂しさを感じる日々を過ごしています。

わたしの場合は、八年間で、個人的、感情的には、とても辛いことでした。もう少し務めることが出来るのではないか、という思いが強かつたからです。

しかし日々の伝道・牧会の上に、他の方々に迷惑がかかることが明らかになり始め、一線を退くことにしました。

今年で五十八年になります。アメリカ会衆派教会海外伝道部から派遣されたF・L・ラバッ宣教師により、一九三一年(昭和六年)に初めて枇杷島での伝道が始まりました。当時、枇杷島は名古屋市西区に合併したばかりで、人口約四千人、市電もバスも通りませんでした。旧街道(美濃路)沿いに市街地が形成され、庄内川に沿つて田畠が広がっていました。小さな寺院や神社が古くからあり、キリスト教には全くの未開拓地でした。ラバッ師は一九三二年に平屋建ての日本家屋を借りて土曜学校を開き、子供たちを手掛けたりに伝道しました。

それが今日の枇杷島幼稚園の前身となりました。

枇杷島教会

ここでの宣教

教会で園児の母親を対象に「かわい種の会」を毎月持ち、交流と聖書の話を継続しています。この地区は街道沿いの古い町とマンションが建つ町で、地元の人と移住してきた人が混在しています。キリスト教にはずっと距離を置く人と、若い人は拘りのない人もいます。福音宣教にいつも望みがあることを信じて、キリストの福音を根気強く宣べ伝えています。



教育部婦人研修会報告

二〇一八年度中部教区教育部婦人委員会主催の研修会が、七月二日～三日にかけて三重県鳥羽市の鳥羽シーサイドホテルで開催されました。参加人数は二三六名。講師は福岡女学院大学・短期大学学長の阿久戸光晴先生(写真)です。

次は石川地区の担当ですが、どの地区も教会の高齢化が進んでいます。これらの歩みの中で考えていかなければならぬ問題ではあるのですが、私達は福音の希望に生かされています。遣わされた場所でイエス様の愛に満ち溢れた信仰の花を咲かせることが出来ればと願っています。

教育部婦人委員長 立田彰子

さふらん会は、戸田伊助牧師の時代に、日本基督教団名古屋教会に集つていた知的障がいのある方の祈りをきっかけになりました。その祈りは「神様、名古屋教会を離れたくないありません。そこにいさせてください」という祈りでした。この祈りに促された方々の祈りと支援を受けて、一九八三年小規模作業所が始まりました。四年後に社会福祉法人格を取得し、「さふらん生活園」を始めました。礼拝を毎日行い、神さまの声を聴きながら、障がいのある人や人も共に生きようとしています。

現在では、生活介護事業所二か所（さふらん生活園、ヨナワールド）、ヘルパーステーション、ホームペルブ（ホームペルブひだまり）、グループホーム、相談支援事業所一か所（ジャム）、相談支援事業所一か所（ヨナワールド）までに成長しました。さふらん会の事業は様々ですが、どれも仲間たちのニーズから始まりました。

年齢を重ねた仲間たちは多くは、グループホームに暮らし新しい家族を形成しています。職員・アシスタントが仲間の意志を尊重しながら生きている姿は「恵みの徵」です。今後も仲間の人たちがその人らしく、生活できるよう、神さまに助けて頂きながら、職員相互も助け合って歩んでいきたいと願っています。教区の諸教会・伝道所の皆様には、法人の開始直後から物心ともにお支え頂き心から感謝しています。ぜひ働き人も送つて下さいますようお願いいたします。

さふらん会



「中部教区互助制度を
支える自主献金」に
ご協力ください

昨年度スタートした「互助制度を支える自主献金」は、目標額を大幅に超える三二〇万一千八〇円の献金がささげられました。その結果、互助制度の根幹である謝儀援助・伝道費援助合わせて前年度比二百万円増の予算を組むことができ、二教会からの新規申請に応えることができました。今年度は昨年度実績に合わせて、九月第一聖日の振起日を機に二五〇万円を目標とした献金をお願いすることになります。

七月末に教会・伝道所役員会宛てに当献金の趣意書等をお送りした折、教区内の教会・伝道所の所在地をマークした簡易マップも作製し同封しました。中部教区には一〇四教会・伝道所がありますが、名古屋の中心部に教会が集中する傍ら、隣の教会に行くのに一時間以上かかる教会もあります。石川県の輪島教会から三重県の尾鷲教会までは約五百キロと広範囲に及びます。

「互助制度を支える自主献金」は、中部教区の一致と連帶の証として行われるのです。

【教団総会議員選挙結果】

※カツコ内は教会名

- 【教区三役より】常置委員会の主な決定事項
(教区総会以降の主なもの)

 - 一、秋季教師検定試験受験志願者面接三名
 - 一、城之橋教会 宗教法人規則変更承認申請書
 - 一、教師招聘承認申請三件
 - 一、教師辞任承認申請二件
 - 一、教師隠退届承認申請一件
 - 一、就任式四件
 - 一、各部、各委員会の委員を補充する
 - 一、今後、中部教区総会の宿泊は各教会で手配する
 - 一、平和聖日献金の目標額を九〇〇万円とする
 - 一、赴任費援助六件
 - 一、鳴海教会基本財産（境内建物）取得申請

【教区三役より】

常置委員会の主な決定事項
(教区総会以降の主なもの)

- 一、秋季教師検定試験受験志願者面接三名
- 二、城之橋教会 宗教法人規則変更承認申請書
- 三、教師辞任承認申請二件
- 四、教師隠退届承認申請一件
- 五、就任式四件
- 六、各部、各委員会の委員を補充する
- 七、今後、中部教区総会の宿泊は各教会で手配する
- 八、平和聖日献金の目標額を九〇万円とする
- 九、赴任費援助六件
- 十、鳴海教会基本財産（境内建物）取得申請

【教区だより】

◇誕生

*那月ちゃん（一月三十一日生）

敦賀教会 有岡史季教師

◇お悔やみ

*七尾教会 釜土達夫（父）

*飛驒高山教会 大塚信明（母）

*無任所 原真文（母）

*武生教会 佐々木千沙子（夫）

*隠退教師 篠田潔

◇お見舞い

*若草教会 勇文人夫人 智子

*桃山教会 田中ケイ子

*半田教会 横山良樹

ご快復をお祈りします。